

第2300回 例会

11月30日(木)雨 / 12:30 ~ 13:30 [松魚亭]

1. 講話
中川 茂樹君 (会員) 「私の職業」
2. 出欠
出席 26名 欠席 14名
3. ニコニコボックス
山上君、岩網君 中川会員のお話、楽しみです。
越田君 今回初挑戦で金沢検定合格しました。
初級ですが、来年は中級を目指します。



合計 5,300円 (累計 213,800円)

ウクライナ等海外緊急支援基金贈呈式

12月4日(月)晴れ / 10:00 ~ 10:30 [金沢大学]



国際奉仕事業と創立50周年記念事業共同で、金沢大学が開設する「ウクライナ等海外緊急支援基金」へ寄付を行い、大学関係者と会談した。基金はロシアのウクライナ侵攻の影響を受けている留学生や研究者を支援する目的で設けられ、活用されている。

第2301回 例会 クラブ年次総会

12月7日(木)くもり / 12:30 ~ 13:30 [松魚亭]

1. クラブ年次総会
次年度理事選任
前年度財務報告および現年度中間報告
2. 出欠
出席 21名 欠席 19名
3. お誕生日お祝い 木下君 (10日)
4. 結婚記念日お祝い
森君 (8日) 木下君 (20日) 永井君 (24日)
木村 (功) 君 (25日)
5. ニコニコボックス
山上君、岩網君 12月4日 金沢大学で、寄付金の贈呈式がありました。
これで50周年事業に一区切りつきました。
今村君 この度、母の死去にあたりお心遣いを頂き心より御礼申し上げます。
松本君 10月3日 ちょっと嬉しい事がありました。

合計 7,000円 (累計 220,800円)

第2302回 例会

12月14日(木)晴れ / 12:30 ~ 13:30 [松魚亭]

1. 講話
中森 勉氏
(金沢工業大学名誉教授・金沢湯涌江戸村村長)
「近年の文化財保護(建造物)の動静」
2. 出欠
出席 会員 23名 欠席 17名
3. ニコニコボックス
山上君、岩網君 中森様をお迎えして。お話を
楽しみにしております。
吉井君 講師に中森様をお迎えして。



合計 5,000円 (累計 225,800円)

第2303回 会員作品展、年忘れ会

12月21日(木)雪 / 17:30 ~ 18:20、18:30 ~ 20:45

1. 出欠
出席 会員 19名 ご家族 23名 欠席 21名
2. 来訪者
小林 網代様 (オープン参加)、武藤 景介様、池田 絢子様
3. 例会
開会点鐘
ロータリーソング「それでこそロータリー」
会長エレクト挨拶
松魚亭さんへお礼
閉会点鐘
4. 年忘れ会
ミニコンサート シタール&タブラ (演奏:武藤景介氏、池田絢子氏)
魚住為楽作品展 抽選会
サンタさんからのプレゼント
ロータリーソング「手に手つないで」
5. ニコニコボックス
山上君、岩網君 素敵な演奏と雪景色を楽しみましょう。
北川君 年忘れ会楽しみです。

合計 8,000円 (累計 233,800円)



■ 金沢市内 RC メークアップ情報

- (月) 金沢東 RC (スカイホテル) 前週水曜日午前中までに要予約
1/8、15 休会
金沢香林坊 RC (東急ホテル) 前週水曜日までに要予約
1/15 休会
- (火) 金沢南 RC (日航ホテル) 1/9 休会
金沢みなと RC (ANA クラウンプラザホテル) 1/9 休会
- (水) 金沢 RC (ニューグランドホテル) 前週水曜日までに要予約、
1/3、24 休会
- (木) 金沢北 RC (松魚亭) 月曜日までに要予約、1/11 休会
金沢百万石 RC (日航ホテル) 月曜日までに要予約、
1/11 休会
- (金) 金沢西 RC (東急ホテル) 水曜日までに要予約、1/5、12 休会

■ 1、2月の卓話予定 企画委員会

- 1月18日(木) 「年男 今年の抱負」中村實博君、岩網大介君
(例会後定例理事会)
- 1月25日(木) 「二宮尊徳から何を学ぶ」中桐 万里子氏
(二宮尊徳ご子孫)
- 2月 1日(木) 「私の職業」本田正敏君 (例会後定例理事会)
- 2月 8日(水) 船木 清崇氏
(天日陰比咩神社 禰宜、中能登まほろば RC)

金澤北ロータリークラブ



発行 2024.1.18thu

NO. 1002

事務局/金沢市大手町15番15号 金沢第2ビル4階
TEL:076-254-6368 FAX:076-254-6395
E-mail:office@kanazawa-north.jp
HPアドレス:http://www.kanazawa-north.jp



「兼六園」

元気な子ども達の笑顔

会員 千口 寿子



過日の年忘れ夜間例会では、はじめて耳にするシタールとタブラの演奏を聴かせていただきました。シタールは三味線やエレキギターのようにも聴こえ、なんとも神秘的で不思議な音色の奥深さに魅了されました。タブラは体験ができるとの事で本当は叩いてみたかったです。(笑)

魚住先生の作品展では同じテーブルの会員様から何度も挑戦しても当たらなかった作品を今年こそはと意気込みを感じられました。私は一昨年風鈴が当たったのですが、残念ながら2023年は猛暑で素敵な音をゆっくり愉しむ事があまり出来ませんでした。

そこで“音”について少し調べてみました。「人間にとって聴覚とは 環境を把握しコミュニケーションを成り立たせるために欠かせない情報処理機能であると共に感情に直結する感覚世界を構成する重要な要素である」と書かれてました。風鈴やお鈴、神秘的な音、お経、好きな人の声、好きな曲を聴く事で感情を豊かにする事が可能になるとのことです。誰もが知らず知らずのうちに求める“音”の中でこころ豊かに生活しているのでしょう。

ただし、このように感情が豊かになる幸せな音ばかりではありません。

今、この原稿を書いている上空では、自衛隊のヘリがひっきりなしに飛んでいます。バリバリという音ははっきり

いって怖いのです。医療従事者の方や物資を届け、帰りに重病人を近隣の病院に転院させているらしいです。命を繋ぐための音ではありますが、日頃聞き慣れないこの事態に困惑するばかりです。また、地震アラートがTVや人数分のスマホからけたたましく鳴り、心臓が潰れそうになるくらいのものでごく嫌な音です。絶対に警戒してしまう音です。

この度の震災は言葉が全く出てきません。改めて命の尊さを感じました。今自分に何が出来るのか？ ひとりひとは微力ですが、多くの方々の力を今集結させる時。一被災者としてもこの事態は重く受け止めるべきですし、寒い中現場で救助されている方には頭が下がり感謝しかありません。

表題に戻りますが 今例会では会員様のお子様やお孫様に久しぶりにお会いできて良かったなと思います。元気に走り回る子供達の笑顔を見てると幸せな気分になります。何よりのエネルギー源です。年に数回の夜間例会は子供好きの私にとってはとても楽しみな時間なのです。

今年は厳しいスタートでしたが皆様の御多幸をお祈り申し上げます。



自立援助ホーム シェきらりを訪ねて

会員 内堀 茂

10月4日、当クラブの50周年で来沢されていた小石川RC副会長の小松崎さん、相模原南RC会長の徳久さんと当クラブの松田会員と一緒にシェきらりを訪れる機会を得ました。日航ホテルに迎えに行き、郊外の目的地に向いました。車を走らせること30分、着いた所は民家と畑に囲まれた静かな住宅地でした。

建物内部は、民家を施設用として改修されており、1階には事務室、ダイニング、キッチン、洗面所、浴室、トイレなどがあり2階は、洗面、トイレ、個室があり、数名の利用者が支障なく住める施設でした。

応接室でホーム長さんと松田会員を中心にいろいろな話を伺う事が出来ました。

施設を利用している子供達は、親から虐待を受け実家がない、帰る場所がない15～22歳の女の子たちです。

入所した利用者さん達の状況は、落着いて食事を摂れない子、又、反抗的な態度や暴言を吐く子、不満を発散させる子など様々いるそうですがそれらを吐き出させるように心掛けているそうです。それを「お店びらき」と呼んで、そこから利用者さんとの付き合いが始まるとの事だそうです。利用者さんにとっては暴言や態度がどこまで許されるのかを知る大事な機会だそうです。

罪のない子供達が虐待を受け、その虐待が親から子へと連鎖している実態の話を知ると胸がいたみました。施設で取組んでいる様子は「行ってらっしゃい」「おかえり」「ありがとう」と当り前の声かけを大切に、あたりまえの生活を体験させることに徹底されているようです。

季節感のある行事など今ならクリス

マス、お正月、成人式には晴れ着を着る、おひなまつり…etc体験を通じて楽しんでもらう。洗濯、掃除、調理などを普通に出来るようにする。それらを日々体験して、社会に出たいと云う思いが伝わりました。やっている事は、母親、父親の替りです。

利用者さんの中には、お菓子作りに励みお菓子作りを社会人になった時の目標にする子もいました。又、高卒の資格を取るために勉学に励んでいる子、アルバイトに頑張り寮費を払う子、社会人として自立できると思われる子、沢山の利用者さんの状況を聞くことが出来ました。

卒業した子からの、感謝とお礼の手紙の内容も聞きました。又卒業した子にも連絡を取り、親替りとして相談にのり、場合によっては再度入所することも考慮しながら支援しているそうです。

卒業した一人の娘さんが結婚し出産されました。その娘は、母親としての喜びと責任を感じ「この子を普通の子供に育てたい」と育児に頑張っています。この言葉を聞き、親から子への虐待の連鎖が断ち切れると思えました。

シェきらりの素晴らしさと必要性を感じました。スタッフの皆様の献身的な努力とその成果をみると、私達も微力ながら支援を続けなければいけないと思えました。